
忘却の華

桜華

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘却の華

【Nコード】

N9216Z

【作者名】

桜華

【あらすじ】

世界に復讐を誓う、仮面の王子ルルーシュ。

修羅が道を行く彼を救うため、漆黒の騎士は立ち上がった。

「あいつは、幸せになるべきなんだ」

大いなる力がもたらすのは破滅か、将又望んだ世界か。ギアスを廻るもう一つの物語が始まる。

始まり

朝から酷い雨が降っていた。

仕切に窓を叩く横殴りの風。

庭園を一望出来る筈の、透明な硝子板の先には、ただただ、澱んだ曇天が広がっている。

その灰色の空を、酷く端正な顔立ちの少年が一人、ぼんやりと見上げていた。

陶磁器の様に、染み一つ無い真っ白な肌。艶やかな漆黒を纏う髪の間からは、気高い王者の証である紫水晶が覗く。全てを魅了する絶対的な美しさがそこにはあった。

「ルルーシュ」

柔らかな声音で呼ばれたその名に振り返れば、自分と同じ艶やかな漆黒が目に入る。母上と紡ぎかけた口は、黒髪の後ろに見え隠れする影を見つけて閉じる機会を失った。さらりと、自分とは違う、青みが掛かった黒髪が揺れる。

「アレイン・シェルベットです。お初にお目に掛かります、ルルーシュ様」

丁寧に腰を折った少年は、見る限り自分と差ほど歳は変わらない様に見えた。

五、六メートル四方に囲われた教室内、午後の暖かな陽気に誘われた生徒数人がうつらうつらと首を上下させている。加えて少し年配の落ち着いた声が届ける内容は、複雑に入り組んだ数式の群れ。次第に数を増していく小船を見遣り、アレイン・ライラックは小さく苦笑を漏らした。

ここまでくると少しは真面目に聞いてやろうかと、多少なりとも教師に対しての同情心が沸いて来る。

あくまで、思うだけだが。

窓の外にゆくりと視線を向け、日向の猫宜しく眼を細める。窓際の最後尾に位置するそこはアレインにとって絶好のポイントだった。差し込んでくる日光はぼかぼかと心地よく、自然と瞼が下へと落ちてくる。

何度が現実と夢の狭間を行き来し、あわや小船の仲間入りと言うところで授業の終了を知らせる音が耳に届いた。その音にはちりと眼を開いたアレインは、きょろりと見慣れた漆黒を捜す。

右斜め前方に見つけたその人は、そそくさと席を立とうとしていた。

またかと、肩を竦めたのは一瞬。

さつと、卓上のノートなりシャーペンなりを鞆に掻き込む様に流し入れる。ものの十秒で身支度を整えたアレインは、彼が向かうであろう校庭を目指す為、先程まで自分が眺めていた窓枠にその足を掛けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9216z/>

忘却の華

2011年12月28日21時51分発行